

そもそも、

「知的財産」

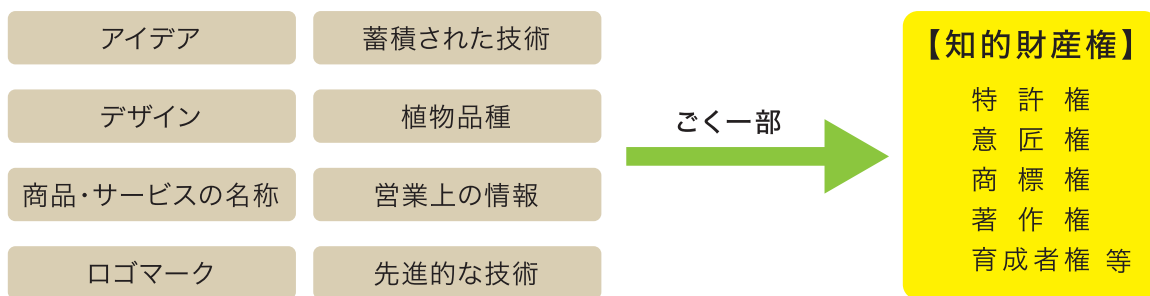
って何ですか？

「知的財産」と聞いて、
何をイメージしますか？

特許権、商標権、著作権・・・どれも自分とは関係ない世界だと思って
いませんか？何も「新しいもの・高度なもの」だけが知的財産では
ありません。農家のみなさんが普段しているちょっとした工夫や、
地域の農業者ネットワークなども、実は立派な知的財産です。

知的財産

価値のある情報、人々のひらめきと努力の結果



農ハウ

農業現場でも様々なノウハウがあります。



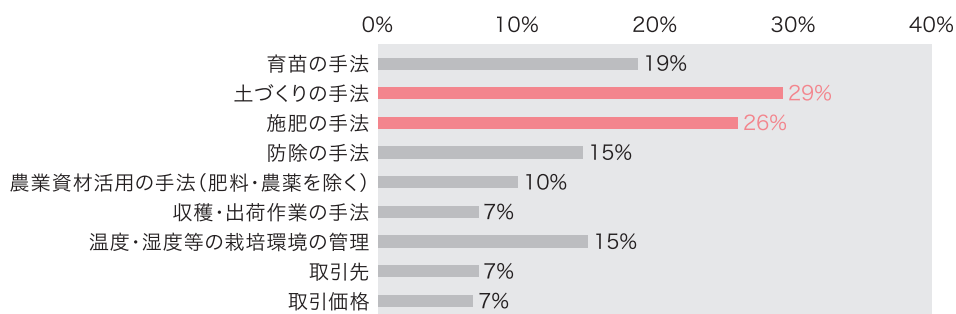
これらはいずれも立派な知的財産です。

では、実際のところ、どの程度「農ハウ」を意識していますか？

実際の農業現場での農ハウの利用、
管理の現状はどうなっているのでしょうか？
ここでは、農業経営体の皆様に対して行った
アンケート調査の結果から、
農ハウに関する現状を見てみましょう。

1 多くの経営体が農ハウを持っています。

Q1. どのようなものを農ハウとして認識していますか？

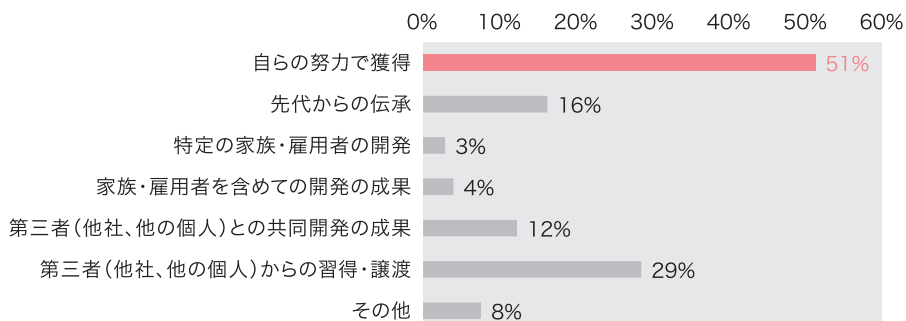


アンケートの結果、多くの経営体が「農ハウ」を持っていることがわかりました。

特に、「土づくりの手法」や「施肥の手法」などが多く回答されましたが、選択肢以外でも製茶法、球根管理、整枝、剪定、水管理、飼料設計、繁殖管理、資材、育種、土壌消毒など様々な農ハウがあげられました。

2 農ハウの多くは、農業者の皆さんが自ら開発されたものです。

Q2. どのように農ハウを獲得していますか？



その農ハウは、農業者の皆さんが自ら試行錯誤して開発されたものであり、皆さんの大事な知的財産です。

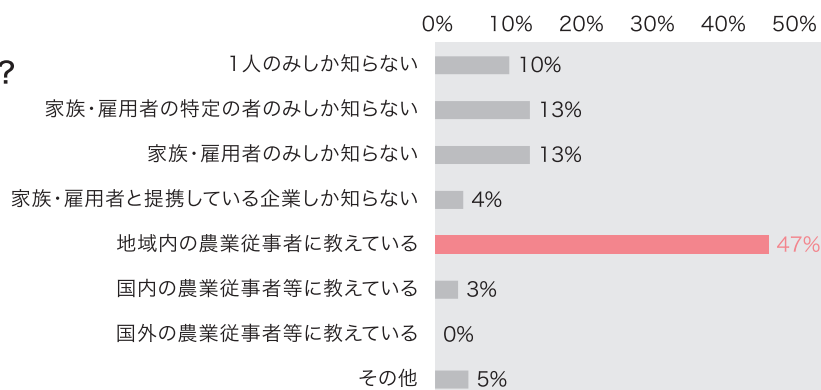
■調査概要■

対象者 農業経営体
実施時期 平成29年7-8月

回収数 277経営体
調査方法 郵送調査（自記式）

3 多くの方が、農ハウを地域内の農業従事者で共有しています。

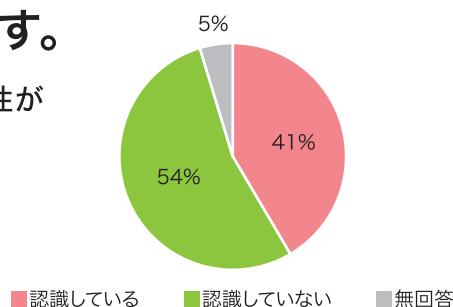
Q3. どこまで農ハウを共有していますか？



一方で、開発した農ハウについて、多くの方が、地域内の農業従事者に教えていると回答しました。

4 農ハウが財産的価値を有する可能性があることを認識している人も多くいます。

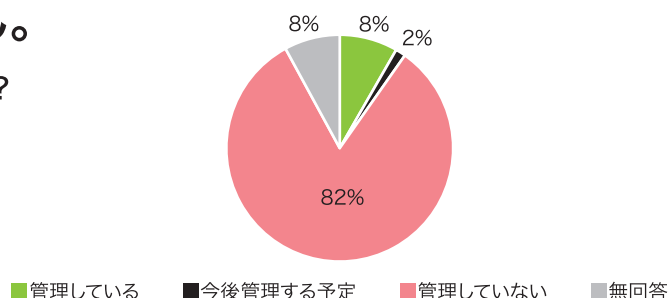
Q4. 農ハウが財産的価値を有する可能性があることを認識していますか？



農ハウは、知的財産であり、場合によっては財産的な価値を持っているということについて、4割程度の方が「認識している」と回答しました。

5 一方で、農ハウを管理している経営体はさほど多くありません。

Q5. 農ハウを管理していますか？



8割以上の方が現在は農ハウを管理していないと回答しました。

また、具体的な管理の内容として例えば、「第三者の目に触れないように管理」「マニュアルにして私的に保管」「言いふらさない」「他人の前で作業を見せない」といった回答がありました。

それでは、次のページからケースごとに農ハウ管理に関する事例を見ていきましょう

農ハウをめぐるこんな



①個々の農家のトラブル

補助金を活用して新規就農者を受け入れ、これまで培ってきた野菜づくりのノウハウを伝授したが、間もなくして離職し、同じ品目を栽培する隣の農業法人に就職。数年後、**同じ生産方法**で作られた野菜が市場に出回ってしまった。

独自に編み出した肥料の最適な調合バランスをノートにまとめ、「マル秘」扱いで保管していたところ、たまたま視察に来ていた農家に対し、従業員がノートに記載していた

内容を話してしまった。



こんな時、どうすれば良い？

特許取得などしていない農業技術であっても、一定の条件が整えば不正競争防止法上の「営業秘密」としての保護を受け得るので、訴訟提起を通じて損害の賠償や差止めを求めることは可能です。しかし、そのようなもめ事は無いにこしたことはありません。日頃から情報管理を徹底するとともに、技術情報の共有範囲（本人限り／家族まで／従業員まで／JAまで）、圃場の撮影禁止、離職後の秘密保持義務など、必要に応じて定めておくことで、情報の流出を未然に防ぐことができます。

農業技術だけでなく、取引先・顧客リストなどの経営に関する情報や、栽培データなども「営業秘密」に含まれる可能性があります。日頃から農ハウに対する意識を高めておくことが重要です。